施設とこども

――静岡大学教育学部付属幼稚園――

ＰＴＡの会合で、たまたま園舎の話になった時、あるおかあさんが「家の若い衆が幼稚園、幼稚園って奥さんがおっしゃるので、どんな立派な幼稚園かと思っていたのに、今日坊やのかさをお届けしてビックリしちやった、あれじゃわしらん山家の幼稚園よりよっぽど悪いやって申すのですよ」と笑い話をしていたことを思い出します。ほんとうにその通りで、この静大の附属幼稚園は戦後ある施設をここに運んできて、とりあえず建てなおした、古い園舎でした。それでも、代々の先生の丹精で廊下をつけたり、園舎や窓枠を明るく塗り変えたりして、とにかく七十五名の園児が、一年一年とここで十年間も楽しく生活し巣立っていったのでありました。

しかしそのお蔭で、こどもが絵の具を使う時でも思う存分筆を塗りたくって少しは机の上や床上にはみ出しても、また粘土を室の中に持ち込んで、夢中でこねまわしふんずけても、決して汚れを心配する必要もなく、先生もこどもも、ごく軽い気持で、黒光りしているお部屋を使っていました。

ことに大雨の降る日は保育室や遊戯室で飛び回っているうちに、天井から落ちてくるしずくに「先生！　バケツ！　バケツ！　たらいないの！　お雑巾で拭こうやあ！」とみんなで期せず協同してこどもらしい雨漏対策を考えたり、冬の寒い日には、縁の下から吹き上げる冷たいすき間風を、そっとむしろを敷く、先生の心尽しを知らないで、「いいお座敷だねえ―」とおままごとが、そこで展開されたり、古ければ古いなりに楽しい喜びの幼稚園生活を続けていました。

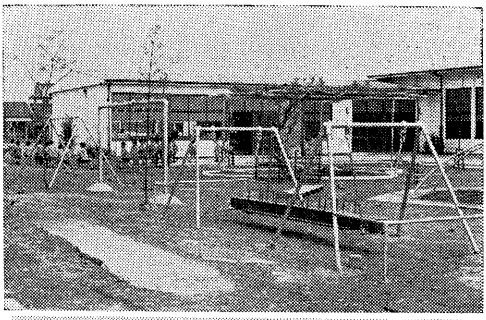
ところがこのたび静岡市に土地移譲の問題が起り、どうしても園舎を移転しなければならないことになり、文部省の特別の配慮により、園舎新築というしあわせなことになりました。そして総工費約五百四十万円をかけた、広々とした明るい国立の偉容（？）を整えたこの幼稚園ができ上ったわ

けであります。

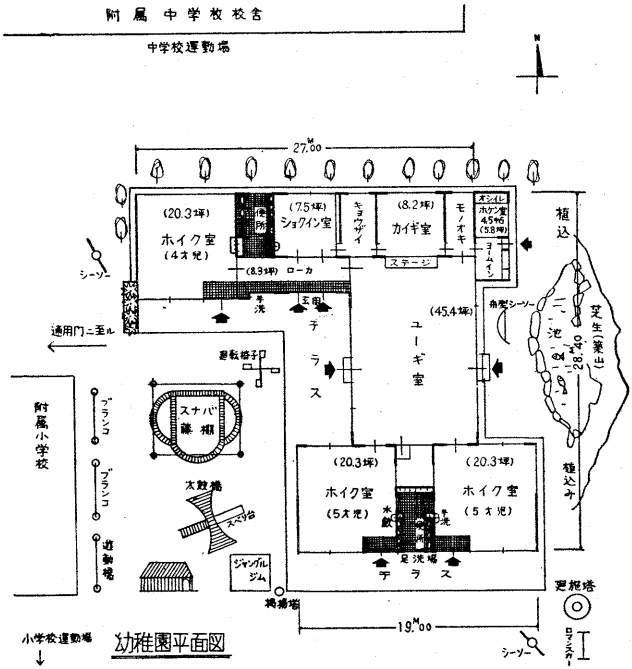
新園舎は平屋建で総建坪数一五六坪、外壁は乳白色のモルタル塗、屋根はジュラルミンでモダンな感じのする園舎(全景参照)小、中学校の鉄筋三階建の建物群の中に、調和して建てられました。

敷地の狭いことがなやみでしたが、決められた坪数の中で、保育室をなるべく広く、便所と昇降口は各部屋に取りつけること、教材室、保健室、教生控室兼会議堂、観察室、物置、遊戯室をと、設計して頂く前に何度か文部省の方々大学側と話し合い、大体希望を入れて建設して頂きました。(平面図参照)

間取で素晴しいと思った点は、廊下に坪数を取られなかったことで、遊戯室が廊下の代りになっていることです。図面によっ



園舎全景



静岡大学部付属幼稚園平面図

て説明致しますと、保育室は三つとも約二〇坪で南向の冬は暖かく夏涼しい部屋、便所は保育室の隣で水洗式のもので、三分おきに自動的に排水されるので臭気の心配はありません。遊戯室は約四十六坪で突あたりの会議室は戸を全開することによって、遊戯室の舞台になるので、床が三十糎ほど高くなっています。保育室、会議室教材室、職員室とは室の内部でドアによって通路ができているので、廊下がなくても小使室の往復ができ非常に便利です。（写真参照）

こちらに引越して参りましたのが、今年の二月十四日、その前後の子どもの行動記録の中から施設とのつながりのあるものを二三抜粋しかみましょう。

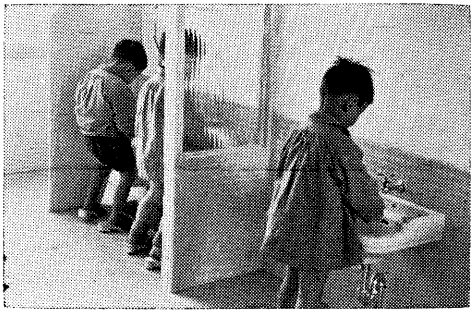
○新しい園舎ができるまで、

「新しい幼稚園もう建ってる？」

「見せに連れて行ってよ」

「学校へ行く前に、ぼくらもはいれる？」

「屋根は、桃色で壁は水色で窓は黄にしてほしいよ」



手　洗

「何時引越す？　このカードを全部はっちやったら？」

○新しい机と椅子（1月21日）

新園舎に備えて、机や椅子も新しいのがきた、遊戯室に三クラス分まとめて置いてあったのを朝みつけて、大喜びでさっさと自分達で運び出した、先ず薄緑色のビニールが張ってあるのが自分達の組のだと確かめてから、一人で二脚も三脚もかかえて運ぶ。今度はローズ色の年少組のを運ぶ、次に一年保育のクリーム色のを手伝いながら「今日は大変な日だよ、全く」とふうふういいながら喜んでいる。

その奇麗な机に年少組のこどもが、きずをつけた「先生もっと叱らなければ駄目だよ、赤ぐみでも（年少組）ひどすぎるよ」という。お弁当の時には「コップを置くとあとがつくかも知れないよ」といってお弁当の蓋の上にコップをのせようといい出したり、ふきんの上にのせたりしている。

○引越し（2月14日）

朝荷物だらけの遊戯室で、わざわざ狭いところを通り抜けたり、走ったりしているまず積木をオート三輪にのせるのを手伝い自分の椅子抽出しをめいめいがもってありの行列のように新園舎と旧園舎の間を往復する。休んでいる友だちの分も持っていってあげようか、といってくれる人もいたが、小学生も大勢手伝にきたのでまたたく間に運び出す。ガランと一物もなくなった

部屋に入っておやつのあんパンをたべる、「坐るところがないね」といったら、ずらりと窓際の棚の上に目白押しに腰掛けて「ここでたべよう」という。

○新園舎第一日（2月15日）

「迷っちゃったよ」などといいながら、うれしそうに登園、にこにこしている。早速、新しい緑板に絵を描く。ままごとのところでは、レースのカーテンを窓のところへ苦心してかける、ままごとの棚を作ろうと、布を押ピンで観察棚にとめる、花瓶に花をさす。

「遊びたいから今日はお集まりに止めにしょうよ、こんないい園舎だもの」

「もっと遊ばせて、帰りが十一時では早すぎるよ」庭のまだ整地してない泥のところでは、さっそく「粘土だ、粘土だ」と泥あそびが始まる。

○新しい園舎で（2月16日）

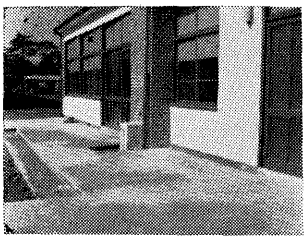
靴を入れる下駄箱が一人一人入れるようになっているので、自分たちで、自分のところを決めて白墨で自分の名前をかき入れる。

今まで、休んでいてはじめて新園舎にきた友だちには、いろいろ説明して回っている。新しい園舎のどこがよくなったかと皆で話し会う。

「水洗便所になった」「部屋が大きい」「部屋がいくつもある」「電燈がきれい」「舞台がある」「コンクリートの所があっていい」

○遊ぎ室（2月18日）

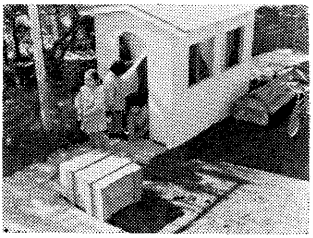
今までよりも広くなった遊戯室で、リズム遊びをする。すみずみまで一ように走りまわって遊び、「広いもんで大変だ」「大変だ」という。



テラス・玄関

○新しい園舎を描く（2月19日）

新しい幼稚園の、一番好きなところを、どこでもいいから描こうというと、喜んであちらこちらへ行き写生のような形で、あるいは寝そべり、あるいは遊具の上で、思い思いのところを描きはじめる。描いたところは、舞台七人、便所五人、外庭と遊具八人、観察台三人、ままごとコーナー二人。台所湯わかし、ガス一人。



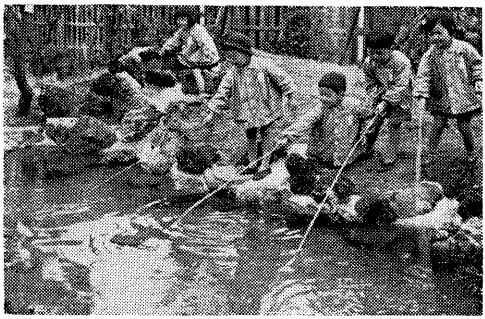
子どもの家

やっと外のままごとが始まり、興奮状態がおさまり、安定してきた。新園舎に移ってから、朝登園しても、きょろきょろ見回したりしていて、教師と朝の挨拶を交わすことを忘れてしまっている子どもが多かった。

○舞台（3月3日）

新園舎の中で、こどもが一番立派だと思うものは舞台らしい、「もう公会堂で劇しなくてもいいじゃ」といっていた。今日はここでひな祭りをする。雛祭りは、こどもの創作劇を簡単にするのだから、舞台などは必要がないと思っていたら、朝から「先生舞台を作ろうよ」といって大積木で劇の雛段を舞台に自分たちで作ってしまった。

○池（4月15日）



池

新しく、入園したこどもたちが、裏庭の池のまわりで、鯉を眺めている。

「鯉のおとうさんもおかあさんも、こどもも、みんなならんで泳ぐだね」

「けんかしないだよ」

「僕とっちゃおうか」

「ああ池の中にちょうちょがいるよ」

「ほんとかね、あ、なんだ、あめんぼの影だよ、うごくよ、ほらね、きえる時もあるよ」

「おいめだかいるか」誰かがめだかの学校は、と歌うと思わず、みんな、めだかのかっこうは――と歌い出す、夏になったら、松の木の上からシャワーにして、この池で水泳ぎや水遊びをと、想像して楽しい。

砂場（4月25日）

「藤の花がきれいだね」砂場でお山を作っているこどもの頭の上に、紫の花びらが風もないのに舞い落ちる、藤棚が満開だ、トンネルをつくるその上に山吹の花をいくつもさす子、白い乾いたお砂を上からこぼして、富士山の雲だという子、入園して間もない赤組の子たちはまだ友だちとの会話は少なく、思い思いに自分だけで砂遊びによ念がない。

この幼稚園は、旧駿府城趾の正門内濠に面して、まわりは、県庁、図書館学校などの官庁街で、大体静岡市の中央にあります。毎年入園希望者が多いので、ある程度選ばれるのでありますが、ほとんど、三十分前後で通園できるこどもで、家庭の付添は、入園日以外は全くしません。組は一年保育二十名、二年保育が年少組、年長組と約二十五名宛になっています。今年から、静大の教育学部に二年の幼稚園課程が新設されましたので、そのうち実習が始まります、子どもは定めし教生にアダナをつけたりして、遊ぶ相手が大勢できたと、喜ぶことでしょう。